

令和7年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等： 工学研究科

事業担当者の職・氏名： 研究科長・森 香津夫

内線電話番号： 9361

電子メール： kmori@elec.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

ベトナム・ハノイ工科大学と三重大学工学研究科とのツイニング・プログラムの実施（継続令和7年度）

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要

本事業は、ハノイ工科大学（ベトナム）とのダブルデグリー・プログラムに準じた内容であり、「日本語ができる指導的技術者の育成」を目的として、日本コンソーシアム（幹事校：長岡技術科学大学）に加盟する大学が共同で実施している。各大学が担当または参加する主な行事として、①コンソーシアム会議、②大学説明会、③日本語による集中講義（4～5日間）、④現地学生による学習成果発表会、⑤現地での運営会議、⑥留学生受入のための編入学試験（書類審査）が挙げられる。学生はハノイで日本留学試験（EJU）を受験した後、各大学で実施される編入学試験を経て学部3年次生として受け入れられる。

(2) 事業の背景・これまでの実績

ハノイ工科大学とのツイニング・プログラム日本コンソーシアムには、2025年度時点で茨城大学、岐阜大学、群馬大学、長岡技術科学大学、福井大学、三重大学の6大学が参加している。ハノイ工科大学で基礎教育と約800時間にわたる日本語教育を2年半（5セメスター）受けた学生に対して、コンソーシアム参加大学は年末から年始にかけて3年次編入試験を実施し、合格者を私費留学生として受け入れている。

受入大学で学部を卒業した学生は日本の大学の学位を取得し、さらに卒業後にハノイ工科大学で必要な講義を受講することで同大学の学位も取得することが可能である。このため、本ツイニング・プログラムはダブルデグリー・プログラムに準じた内容となっている。本学大学院への進学者も徐々に増えており、本学への編入学生の卒業・修了後は多くの学生が日本国内企業（三重県内企業を含む）に就職している。三重大学では2016年から工学研究科が本コンソーシアムへ加盟し、機械工学科（現：機械工学コース）を中心としてこのプログラムに参加し、2017年から編入学生の受入を開始している。

(3) 事業実施結果

集中講義および各大学の紹介は、ハノイ工科大学において対面形式で実施された。スケジュールの都合により、現地学生による各種発表会はオンライン形式（2026年3月）で実施予定としている。本年度は本学教員1名が2度現地に赴き、下写真のように9月には受験生に対して大学紹介（パワーポイントおよびブース形式の2部構成）を行い、10月には2年次生に対して日本語による工業力学の集中講義（45分×18回）を対面形式で行い、修了証書の授与も行った。2025年末に実施した3年次編入学試験（書類審査）では、2名が本学を第1希望とした。現在までに機械工学コース（旧機械工学科を含む）では延べ20名を受け入れており、そのうち5名が大学院博士前期課程に進学している。2026年度も1名が博士前期課程への進学が決定しており、機械工学コース学部3年次へ2名の編入学が決定している。本年度の主な流れを以下に示す。

2025年4月 2名が本学機械工学コース3年次に編入学

2025年9月 大学説明会（対面）

2025年10月 工業力学の集中講義（ハノイ工科大学にて5日間）

2025年12月 ツイニング・プログラム学生を対象とした3年次編入学試験（書類審査）

2026年3月 コンソーシアム会議および学生による学習成果発表会（オンライン予定）

2026年4月 2名が本学機械工学コース3年次に編入学（予定）、1名が博士前期課程に進学予定



写真 大学説明会



写真 集中講義終了後の修了証授与

(4) 事業の意義

ハノイ工科大学はベトナム国内でトップクラスの工業大学であり、ドイツやフランスも同様のプログラムを実施している。本ツイニング・プログラムの人気は非常に高く、近年では入学者が100名を超えている。しかし選抜過程は厳しく、編入学試験の受験に至る学生は例年20名程度である。そのため、各大学に編入する学生は優秀であり、上述した「日本語ができる指導的技術者の育成」が着実に達成されつつある。博士前期課程への進学者も増えており、今後も継続的に毎年2～3名程度の受入が期待される。

(5) 事業の発展性

2017年から機械工学コース(旧機械工学科)が受入を開始した。第2期の学生が修士課程へ進学したことを契機として、その後も複数名が大学院へ進学している。今後は修士課程への進学状況や就職状況を踏まえながら、他コースへのプログラム拡張も検討している。現在、コンソーシアム大学数に対して本プログラムへの参加希望学生の割合が非常に高く、各大学での受入人数の増加も期待されている。将来的には学生交流にとどまらず、教職員交流を含めた発展を図り、学部間協定の締結なども視野に入れている。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

・ 中期目標

1 教育研究の質の向上に関する事項, 2 教育(8)および(9)

・ 中期計画

2 教育に関する目標を達成するための措置, (8)-1, ③

(7) その他

特になし。

令和7年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

1. 大学説明会(2025.9.26, ハノイ工科大学, 担当:中西, CONG)

2026年4月に日本の大学への編入学を目指す学生(22期生, NUT22, 3年次生)に対して, 各大学の担当者が日本語で大学説明を行った。説明では, 研究内容, 日常生活, 奨学金制度, 留学生の生活の様子などについて, できるだけ平易な日本語での説明を心がけた。各大学からの説明の後, 幹事大学である長岡技術科学大学から2025年度入学試験に関する説明が行われた。ブース形式での説明時には, 本学の様子をより理解してもらうため, 同時期にベトナムへ帰国していた本学在籍の CONG 君に, ベトナム語での説明を依頼した。

2. 集中講義(2025.10.20~24, ハノイ工科大学, 担当:中西)

現在2年次生である23期生(NUT23)約40名を対象に, 「工業力学」の講義を上記期間において45分授業×18時限実施した。彼らは2027年4月に3年次編入学を目指す学年であり, 編入学試験は来年度に受験する予定である。

来日直後の3年次では専門科目の講義が多数開講され, 4年次進級に向けて多くの単位を修得する必要がある。そのため, 講義内容を理解するためには日本語能力の向上が不可欠である。集中講義では特に「日本語の読み書きと会話」を重視した。講義はすべて板書で進め, 簡潔にまとめた説明文や解説文は必ず読み上げるようにした。また, 学生がノートに書き写す様子を確認しながら, 説明内容や専門用語が既知かどうかを口頭で確認しつつ講義を進めた。初出の用語にはルビを付け, 全員で声に出して読み上げるなど, 日本語理解の促進を図った。学生の反応は非常に良く, こちらからの問いかけに対して積極的に質問や意見が出されるなど, 活発な授業となった。

3. 3年次編入学生の受入実績等

本学機械工学コース(旧:機械工学科)では, 本プログラムにより延べ20名の留学生を受け入れており, そのうち5名が修士課程へ進学している。卒業・修了後は, 三重県内の企業を含め, 多くの学生が日本国内企業に就職している。



写真 集中講義終了後の修了書授与

令和 7 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

Introduction to Mie University (September 26, 2025, Hanoi University of Science and Technology; In charge: Eitoku Nakanishi and CONG)

For students planning to transfer to Japanese universities in April 2026 (NUT22, third-year students), detailed explanations of each university were provided in simple Japanese by the representatives of the participating universities. The presentations covered research activities, daily life, and scholarship opportunities. In order to help participants better understand our university, Mr. CONG, a student currently enrolled at Mie University, provided additional explanations and answers in Vietnamese.

Intensive Lecture on Industrial Mechanics and University Information Session (October 20–24, 2025, Hanoi University of Science and Technology, Instructor: Eitoku Nakanishi)

A lecture on Industrial Mechanics was given to approximately 40 students of the 23rd cohort (NUT23). These students are currently in their second year of study and will take the transfer examination in the next academic year. After transferring to a university in Japan, third-year students are required to take many specialized courses in mechanical engineering and earn a large number of credits in order to advance to the fourth year. Therefore, improving Japanese language proficiency is essential for understanding the lecture content. For this reason, the intensive course placed particular emphasis on reading, writing, speaking, and listening in Japanese. All lectures were conducted using the blackboard without PowerPoint. The lectures were delivered while confirming that students were copying the notes into their notebooks and checking whether the explanations and technical terms were already familiar to them. The students responded very positively to the questions and actively asked questions and expressed their opinions.

Acceptance of Third-Year Transfer Students

The Mechanical Engineering Course (formerly the Department of Mechanical Engineering) at Mie University has accepted a total of 20 international students through the Hanoi Twinning Program, five of whom have proceeded to master's degree programs. After graduation, most students have found employment at companies in Japan, including companies located in Mie Prefecture.



Photo: Certificate Presentation after the Intensive Lecture